

令和 2 年 5 月 14 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03529

研究課題名(和文) グローバル市場とナショナリズムの思想的起源：18世紀歴史叙述の再検討

研究課題名(英文) Historical Research on ideal Origins of global market and nationalism in the 18th century historiography

研究代表者

小谷 英生 (Kotani, Hideo)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：80709147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は18世紀ヨーロッパに見られる歴史叙述の特質について、世界規模の商業ネットワーク形成とナショナルな意識の萌芽という観点から用いて分析した。フランスの重農主義者たちやルソー、スコットランドのヒュームやスミス、ドイツにおいてはカントや通俗哲学者たち、「統計学の父」アッヘンヴァル、そしてアメリカ建国の父たちを中心に研究が行われた。彼らの統治とポリティカル・エコノミーの科学が歴史叙述といかに結びついていたのか、そしてそれらの諸理論の近さと遠さを国際比較によって確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歴史叙述 啓蒙 18世紀ヨーロッパ 18世紀アメリカ 思想史 ナショナリズム グローバル市場

研究成果の概要(英文)： In our research we worked on the historiography in the 18th century Europe, in the age of developing world-wide commercial networks and national consciousness. We focused on both scientific or philosophical theories and historiography of physiocrats in France, Jean-Jacques Rousseau, Hume, Smith, Kant, popularphilosophers in German, Achenwall as a father of Statistics, and of Founding Fathers of the United States of America.

研究分野：哲学、倫理学、社会思想史

キーワード：歴史叙述 啓蒙 18世紀ヨーロッパ 18世紀アメリカ 思想史 ナショナリズム グローバル市場

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中国やロシアの軍事的・領土的拡張やEUやアメリカにおける移民排斥の動き、日本における右傾化とグローバル化の同時進行などに見られるように、先進諸国による帝國的覇権主義が排外的ナショナリズムの再燃化とともに進展している。こうした動きは周辺諸国を圧迫し、政情不安やテロ増加の原因となっている。先進諸国内部でも、雇用の不安定化や格差・不平等の拡大が進み、ナショナリズムをさらに過熱させると同時に様々な社会不安を引き起こしている。

こうした現代的危機を打開するために必要な方策の内、代表者はグローバル市場・ネイション・帝国という現代世界を構成する三つのカテゴリーを思想史の側面から捉え直し、その最初期形態の解明を目指し研究を続けてきた。グローバル市場・ネイション・帝国の思想史は19世紀を中心に論じられることが多いが、近年では18世紀に起源を求める新たな研究が進んでいる。代表者も一國研究に留まらない社会思想史の国際比較を行うために研究チームを組織し、これまで研究を進めてきた。研究チームは、西洋諸国において18世紀に誕生した新しい統治理論を分析し、それが来るべき帝国とナショナリズムの時代を準備していたことを究明してきた。本研究ではこうした研究をさらに発展させ、18世紀の歴史叙述に着目し、歴史叙述は現在及び未来世界全体を政治・経済的に把握し、方向づけようとする知の方法であったこと、この全体の把握が逆説的に個々のネイション意識を発展させ、拡大し続ける世界市場における帝國的覇権を目指す個別ネイションの政策決定に寄与したことを明らかにしようと試みた。

このような歴史叙述と世界理解・ネイション意識形成の関係を明らかにすることで、グローバル市場・ネイション・帝国を統治の基礎に置く19世紀統治理論の思想的基盤がいかに準備されたのかを理解することが可能となる。本研究を通じて、グローバル市場・ネイション・帝国の思想史がより具体的に展望することが期待された。

2. 研究の目的

本研究では18世紀英米独仏における歴史叙述の相互関係に着目し、啓蒙期の歴史叙述がグローバル市場と帝国の思想的起源において果たした役割と、ネイション意識の形成・発展のために果たした役割とを具体的に明らかにしようと試みた。それによって19世紀以後の政治経済学がグローバル市場・ネイション・帝国を統治の基盤とみなすに至った背景と思想枠組みの解明を目指した。

3. 研究の方法

研究代表者を中心にチームを組織し、英米独仏それぞれの地域ごとにワーキング・グループを作って研究を行った。また、国際・国内学会での発表やシンポジウムなどで積極的に研究報告を行い、成果をその都度社会に還元するとともに、国内外の専門家の助言を賜った。そのために組織されたのが東アジア啓蒙ネットワーク(East Asia Enlightenment Network, EAEN)である。

EAENに参加している主な海外研究者は以下の通りである(括弧内は所属と主な研究分野、敬称略)。Chen Chien-Kang(台湾・国立政治大学、スコットランド啓蒙)、Li Hongtu(中国・復旦大学、イギリス思想史)、Hye-joon Yoon(韓国・延世大学、比較文学)、Ahn Doohwan(韓国・ソウル国際大学、イギリス政治思想)、Paul Tonks(韓国・延世大学、スコットランド啓蒙)、Minchul Kim(韓国・成均館大学校、フランス革命史)、Charles Bradford Bow(英国・アバディーン大学、スコットランド啓蒙)、Craig Smith(英国・グラスゴー大学、アダムスミス)、Maria Pia Paganelli(米国・トリニティ大学、アダムスミス)、Iain McDaniel(英国・サセックス大学、アダム・ファークソン)、John Robertson(英国・ケンブリッジ大学、スコットランド啓蒙)。

4. 研究成果

本研究は18世紀ヨーロッパに見られる歴史叙述の特質について、世界規模の商業ネットワーク形成とナショナルな意識の萌芽という観点から用いて分析した。フランスの重農主義者たちやルソー、スコットランドのヒュームやスミス、ドイツにおいてはカントや通俗哲学者たち、「統計学の父」アッヘンヴァル、そしてアメリカ建国の父たちを中心に研究が行われた。彼らの統治とポリティカル・エコノミーの科学が歴史叙述といかに結びついていたのか、そしてそれらの諸理論の近さと遠さを国際比較によって確認することができた。

初年度の2017年度では、歴史叙述という方法が18世紀においてどのように思念されていたのかを研究した。学会報告として、二つのセッションを企画した。日本哲学会(2017年5月21日、一橋大学)公募ワークショップ「政治哲学と人文主義の伝統」。上野大樹氏(研究協力者)が「思想史研究の隠されたモデルとしての政治哲学 アーレント・シュトラウスから近世人文主義へ」を、小谷が「啓蒙、歴史、ネイション 18世紀から見たヘーゲル歴史哲学のプロブレマティク」というタイトルで18世紀ドイツにおける歴史叙述方法論に関する報告を行った。社会思想史学会(2017年11月4日、京都大学)セッション「ヨーロッパ啓蒙期の歴史叙述」。上村剛氏(研究協力者)が「理性と経験の間 建国期アメリカのプリテン国制史叙述をめぐって」、淵田仁氏(研究分担者)が「ルソーにおける歴史の語りの検討」という題目で発表した。どちらも午前中のセッションだったものの、30名以上の参加者が集まり盛況であった。代表者の小谷は(2)の報告ペーパーを加筆・修正して論文として出版した。また、「窮余の嘘」問題をめぐるカントとコンスタンの論争をまとめたペーパー(2012年口頭報告済み)を

大幅に加筆・修正して出版した。

2年目に当たる2018年度は初年度からの継続で歴史叙述とその研究手法をめぐる方法論の分析を進めるとともに、個別の思想家の具体的な議論を明らかにした。研究報告として学会セッションと公開シンポジウムを企画した。日本哲学会(2018年5月20日、神戸大学)公募ワークショップ「政治哲学における 啓蒙 の位置づけをめぐる——自然法学・人文主義・歴史叙述」(司会・コーディネーター:上野大樹氏)において、飯田賢穂氏・網谷壮介氏とともに「ゴットフリート・アッヘンヴァルの自然法論と Statistiek——自然法論と歴史叙述の関係をめぐって」というタイトルで自然法論と歴史叙述の関係について報告を行った。社会思想史学会(2018年10月28日、東京外国語大学)にてセッション「ヨーロッパ啓蒙期の歴史叙述——Translationと他者表象の問題」を開催し、安藤裕介氏・稲垣健太郎氏を報告者、安武真隆氏を討論者として成果報告を行った。どちらも午前中のセッションだったものの、20名以上の参加者が集まり盛況であった。シンポジウム「啓蒙期ブリテンの歴史叙述をどう読むか」(2018年12月8日、立教大学)を企画し、上村剛氏に個人報告を行っていただいたのち、網谷壮介氏に司会を、犬塚元氏・佐藤空氏・野原慎司氏に報告を行っていただいた。参加者は30名を超え盛況であった。代表者の小谷は「道徳と幸福であるに値すること」(『現代カント研究』第14巻、2018年7月、pp.86-109)として、研究成果の一部を論文として発表した。

最終年度となる2019年度は歴史叙述とその研究手法をめぐる方法論の分析を進めるとともに、成果報告を積極的に行った。研究報告として、7月15-20日に開催された国際18世紀学会(エディンバラ大学)にて3つのパネル(「Enlightenment and Time I-III」)を企画し、代表者の小谷は「Why Should We Think Historically in Political Economy? - Rethinking of Gottfried Achenwall's Statistiek, Historiography, and Prudence of State」というタイトルで発表を行った。2月13-15日に東アジア啓蒙ネットワークの第3回コロキウム(東洋大学)を企画し、代表者の小谷は「Commonsense Philosophy and the 'Dethroning of the Reason': A Methodological Argument in German Enlightenment between Popular Philosophers and Kant」というタイトルで発表を行った。COVID-19の影響により参加予定者のキャンセルが相次いだものの、活発な議論が行われるとともに、2020年度以降の国際研究交流プランについて話し合いがなされた。

さらなる成果報告として、3月14日に東アジア啓蒙ネットワークの第4回コロキウム(一橋大学)を企画していたが、COVID-19の影響によりキャンセルとなった。また3月15-16日に予定されていた国際スミス学会(東京大学)においても発表を予定していたが、同様の理由でキャンセルとなった。

本研究チームの研究成果は、18件の雑誌論文、29件の学会等発表、6件の図書として公表された。研究成果の総まとめとして論文集の刊行を準備していたが、2020年2月頃より本格化した新型コロナウイルスの影響で編集作業が滞っているものの、2020年度内に刊行予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Shinji Nohara, Craig Smith, N. Phillipson	4. 巻 11
2. 論文標題 Adam Smith's Library: recent work on his books and marginalia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adam Smith Review	6. 最初と最後の頁 355-377
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 巻 11
2. 論文標題 Adam Smith's science of commerce: the effect of communication	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adam Smith Review	6. 最初と最後の頁 338-352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷英生	4. 巻 91号
2. 論文標題 啓蒙期ドイツにおける歴史哲学構想	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唯物論	6. 最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷英生	4. 巻 67
2. 論文標題 政治に対する道徳の優位 いわゆる『嘘論文』におけるカントのコンスタン批判について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤空	4. 巻 なし
2. 論文標題 歴史叙述	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『パーク読本 <保守主義の父>再考のために』(中澤信彦、桑島秀樹編、昭和堂)	6. 最初と最後の頁 142-165
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤空	4. 巻 なし
2. 論文標題 経済思想(1) - 制度と秩序の政治経済学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『パーク読本 <保守主義の父>再考のために』' 中澤信彦、桑島秀樹編、昭和堂)	6. 最初と最後の頁 168-190
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 淵田仁	4. 巻 なし
2. 論文標題 『百科全書』項目の構造および典拠研究の概要	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『百科全書の時空 典拠・生成・位』(逸見龍生・小関武史編著、法政大学出版局)	6. 最初と最後の頁 354-365
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 淵田仁	4. 巻 なし
2. 論文標題 政治の余白としての社会的紐帯 ルソーにおける憐憫	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『つながり の現代思想 社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析』(山本圭・松本卓也編、明石書店)	6. 最初と最後の頁 20-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網谷壮介	4. 巻 なし
2. 論文標題 カントの権利論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『権利の哲学入門』（田上孝一編、社会評論社）	6. 最初と最後の頁 103-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤裕介	4. 巻 98
2. 論文標題 18世紀フランスにおける統治改革と中国情報 フィジオクラットからイデオログまで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『立教法学』	6. 最初と最後の頁 302- 320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke ANDO	4. 巻 なし
2. 論文標題 Opinion, Time and Institution: Necker 's Critique of ' New Science '	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Economic Analyses in Historical Perspective (Routledge Studies in the History of Economics)	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田賢穂	4. 巻 4
2. 論文標題 法的拘束力の説明モデルとしての自然法論 ルソーからスアレスへ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nyx	6. 最初と最後の頁 112-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田賢穂	4. 巻 なし
2. 論文標題 自然法は拘束力をもつか：ルソー『ジュネーヴ草稿』葉紙63裏面に書かれたディドロ執筆項目「自然法」批判	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『百科全書の時空 典拠・生成・位』（逸見龍生・小関武史編著、法政大学出版局）	6. 最初と最後の頁 325-351
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上村剛	4. 巻 130巻5-6号
2. 論文標題 18世紀後半の英国における責任論の胎動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国家学会雑誌』	6. 最初と最後の頁 69-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口佐紀	4. 巻 392
2. 論文標題 市民宗教は不寛容か？ ルソーにおける寛容の問題についての考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『早稲田政治経済学雑誌』	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kentaro INAGAKI	4. 巻 17
2. 論文標題 Eine Skizze des Streites um die Auslegung der Respublica Hebraeorum in der Fruehneuzeitlichen reformierten Kirche.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲垣健太郎	4. 巻 21
2. 論文標題 『ヘブライ人の共和国』と国家・教会関係 レモンストラント論争におけるペトルス・クナエウス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『年報 地域文化研究』	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野大樹	4. 巻 15
2. 論文標題 ポリシー・ポリス概念の歴史的展開 近世イギリス宮廷における「立法者の科学」の伝統からスコットランド啓蒙へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『青山総合文化政策学』	6. 最初と最後の頁 35-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Hideo Kotani
2. 発表標題 Why Should We Think Historically in Political Economy? Rethinking of Gottfried Achenwall 's Statistik and His Conception of Historiography
3. 学会等名 International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Kotani
2. 発表標題 Commonsense Philosophy and the 'Dethroning of Reason': A Methodological Argument in German Enlightenment between Popular Philosophers and Kant
3. 学会等名 The 3rd Colloquium of the East Asian Intellectual History Network (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sora Sato
2. 発表標題 Truth, Order and Religion: Burke, Hume and Anglican theology in Eighteenthcentury English Historiography
3. 学会等名 International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小谷英生
2. 発表標題 「ゴットフリート・アッヘンヴァルの自然法論とStatistik 自然法論と歴史叙述の関係をめぐって」
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤裕介
2. 発表標題 「東洋的専制」という他者表象をめぐって：モンテスキューを中心に]
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小谷英生
2. 発表標題 概念によらない合意は可能か？ 金慧『カントの政治哲学』に寄せて
3. 学会等名 アーレント研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小谷英生
2. 発表標題 啓蒙、歴史、ネイション 18世紀から見たヘーゲル歴史哲学のプロブレマティーク
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 Edmund Burke as Historian
3. 学会等名 パーク研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 Edmund Burke and 'Jealousy of Trade'
3. 学会等名 Political Economy Tokyo Seminar (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 淵田仁
2. 発表標題 「すべてを語る」が読者に要請するもの：ルソー『告白』における 方法 の問題
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 淵田仁
2. 発表標題 ルソーにおける歴史の語りの検討
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 網谷社介
2. 発表標題 上村報告と淵田報告へのコメント
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安藤裕介
2. 発表標題 ルソーとネッケルの不平等論
3. 学会等名 経済学史学会関西部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯田賢穂
2. 発表標題 約束と行為の道徳性 ルソー『エミール』B草稿における『良心』概念について
3. 学会等名 哲学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上村剛
2. 発表標題 理性と経験の間：建国期アメリカのブリテン国制史叙述をめぐって
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tsuyoshi KAMIMURA
2. 発表標題 A Historical Reconstruction of the Separation of Powers in the British Empire c.1748-1791
3. 学会等名 The Second Princeton-Tokyo Global History Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口佐紀
2. 発表標題 ルソーの市民形成論における無神論者と狂信者の位置づけ moi 概念を中心として
3. 学会等名 政治思想学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関口佐紀
2. 発表標題 ルソーにおける狂信批判の両義性
3. 学会等名 18世紀研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関口佐紀
2. 発表標題 ルソ－の政治哲学における狂信批判と共同体の情念
3. 学会等名 ルソ－研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro INAGAKI
2. 発表標題 John Selden: Orientalistik und Geschichte der Urkirche
3. 学会等名 第2回東アジアDAADセンター会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroki UENO
2. 発表標題 The Theory of Natural Sociability in the Moderate and Radical Enlightenment: The Case of Adam Smith
3. 学会等名 PoETS (Political Economy Tokyo Seminar) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki UENO
2. 発表標題 Adam Smith 's Theory of Human Social Nature: Justice, Humanity, and Magnanimity as a Regard to Honour and Dignity
3. 学会等名 The 24th HIT International Conference on Philosophy/Social Philosophy/Applied Ethics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroki UENO
2. 発表標題 Polanyian Impact on French Political Philosophy: The Idea of 'capitalisme utopique' and a Social Interpretation of Adam Smith
3. 学会等名 The 14th International Karl Polanyi Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野大樹
2. 発表標題 ケンブリッジ学派における啓蒙研究の 穏和化 とその批判 インテレクチュアル・ヒストリーの近年の動向についてのひとつの概観
3. 学会等名 第13回一橋哲学・社会思想セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野大樹
2. 発表標題 文明社会としての君主制国家 人文主義的君主論の系譜とヒューム政治思想
3. 学会等名 一橋大学哲学・社会思想学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野大樹
2. 発表標題 歴史叙述がなぜ重要なのか？ 人文主義政治思想史研究から
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野大樹
2. 発表標題 君主主義と共和主義 ケンブリッジ学派の諸研究にみる人文主義的統治術とスコットランド啓蒙
3. 学会等名 日本18世紀学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野大樹
2. 発表標題 思想史研究の隠されたモデルとしての政治哲学 アーレント・シュトラウスから近世人文主義へ
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越智秀明
2. 発表標題 ヴォルテールにおける寛容と共和国の理想
3. 学会等名 政治理論研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 中野裕孝・山蔦真之・浜野喬士（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 119
3. 書名 『現代カント研究 14』	

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 192
3. 書名 Commerce and Strangers in Adam Smith	

1. 著者名 Sora Sato,	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 281
3. 書名 Edmund Burke as Historian: War, Order and Civilisation	

1. 著者名 網谷壮介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 206
3. 書名 『カントの政治哲学入門』	

1. 著者名 Ryuzo Kuroki, Yusuke Ando (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 210
3. 書名 The Foundations of Political Economy and Social Reform (Routledge Studies in the History of Economics)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	淵田 仁 (Fuchida Hitoshi) (00770554)	城西大学・現代政策学部社会経済システム学科・助教 (32403)	
研究分担者	野原 慎司 (Nohara Shinji) (30725685)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	安藤 裕介 (Ando Yusuke) (50771888)	立教大学・法学部・准教授 (32686)	
研究分担者	佐藤 空 (Sato Sora) (60749307)	東洋大学・経済学部・講師 (32663)	
研究協力者	上野 大樹 (Ueno Hiroki)		
研究協力者	網谷 壮介 (Sousuke Amitani)		
研究協力者	上村 剛 (Kamimura Tsuyoshi)		
研究協力者	飯田 賢徳 (Iida Yoshiho)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	関口 佐紀 (Sekiguchi Saki)		
研究協力者	稲垣 健太郎 (Inagaki Kentaro)		